

平成27年度 第31回 卒業式 式辞

厳しい寒さが続いた冬が過ぎ、ここ甲山にも春の息吹が感じられる今日のよき日、兵庫県立西宮甲山高等学校 第31回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、誠に大きな喜びであります。

本日、お忙しいにも関わりませず、ご臨席を賜りましたPTA会長様をはじめ、多数のご来賓の方々に、高いところからではありますが、心より厚く御礼申し上げます。

そして、ご列席くださいました保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました194名の皆さん、あらためて卒業おめでとうございます。私は、31回生の皆さんとは、わずか1年間の付き合いでしたが、皆さんからたくさんの感動をいただきました。特に皆さんは、私が校長として初めて送り出す卒業生なので、代表の有村政輝くんを始め、皆さんに卒業証書を授与できたことは、望外の喜びであります。

今、皆さんの脳裏には、甲高での3年間の生活が走馬燈のようによみがえっていることでしょうか。この日がくるまでの3年間、学業のこと、部活動のこと、家庭のこと、友だちのことなど、いろいろと思い悩んだことも多かったのではないかと、思います。これらの悩みを克服し、見事、本日ここに卒業の日を迎えることができたことに、心から祝福の拍手を送ります。また、この日を迎えることができたのは、家族、友人、その他多くの人々の暖かい励ましと、支援があったことを忘れてはなりません。

卒業していく皆さんに、私の心に残っている2つの言葉について、お話しします。

1つ目は、松井秀喜（まつい ひでき）さんの言葉です。松井秀喜さんは、皆さんもご存じのとおり有名な野球選手であります。先日、私は、石川県能美（のみ）市にある松井秀喜ベースボールミュージアムに行く機会がありました。彼は、石川県金沢市の私立星稜高等学校を卒業した後、読売ジャイアンツを経て、メジャーリーグのニューヨークヤンキースで活躍し、2013年に39才で現役を引退した選手です。その記念館の展示資料の中に、僕の好きな言葉、「心と運命」と題された展示パネルがあり、そこには次のように書いてありました。

僕が過ごした星稜高校の一塁側ベンチや室内練習場には、こんな言葉が掲げられていました。

「心が変われば 行動が変わる。 行動が変われば 習慣が変わる。

習慣が変われば 人格が変わる。 人格が変われば 運命が変わる。」

もしかすると相次ぐ怪我に見舞われた僕は、野球選手として終わってしまう運命だったのかもしれない。しかし、強い心を持っていれば行動が変わり、運命さえも変えることができるはず。強がりと思われるかもしれませんが、リハビリをしている間も、「必ず、前よりもすごい選手になって、グラウンドに戻る」という気持ちが揺らいだことはありませんでした。

さて、この言葉について少し調べてみると、この言葉はインドのヒンズー教の経典からきているようで、そこには6つのステップからなる、次のような言葉があります。

「心が変われば 態度が変わる。 態度が変われば 行動が変わる。

行動が変われば 習慣が変わる。 習慣が変われば 人格が変わる。
人格が変われば 運命が変わる。 運命が変われば 人生が変わる。」

このように、やや長いフレーズになってはいますが、いずれにせよ、まずは、自分の心、気持ち、をプラスに変えることから始めると、その先は大きく良い方向に変わっていく可能性があるのだ、ということを示しています。皆さんも心が疲れたときに、思い出してもらえれば幸いです。

2つ目は、1929年 5 月 4 日に生まれ、1993年 1 月 20 日に 63才で亡くなった人物で、その代表作には、映画「ローマの休日」「ティファニーで朝食を」などがある、女優のオードリー・ヘップバーンの言葉です。私は、行き詰まったとき、苦しいとき、つらいときに、常にこの言葉を思い出しながら、様々な状況を乗り越えてきました。

それは、日本語で言うと「不可能なことなんて、存在しない。だって、その言葉自体が『私はできる』って言っているんだから。」です。もう一度言うと「不可能なことなんて存在しない。だって、その言葉自体が『私はできる』って言っているんだから。」です。

日本語では、ピンときませんが、英語で言ってみると次のようになります。

「 Nothing is impossible, the word itself says 'I' m possible' ! 」
もう一度言います。

「 Nothing is impossible, the word itself says 'I' m possible' ! 」

見方、考え方によって、このように前向き、ポジティブにとらえることができるなんて、素晴らしいことだと思いませんか。今後、皆さんが様々な困難に直面したとき、自らを奮い立たせる際に、少しでも参考になれば幸いです。

さて、31回生の皆さんは、本校にとって、一つの節目に在籍した「開拓者」と言えます。それは、皆さんと学年の先生方が協力して、高校生活すべての面において、本校が進むべき道を、率先して示してくれた学年であるからです。学習面、生活面のみならず、学校行事等を始めとして、諸般の事情により一旦は中止していた行事を復活させ、今まで実施することができなかった新たな事にも取り組んだ結果が、現在の甲山高校を創っています。例をあげると、篠山市で実施したオリエンテーション合宿、甲山自然の家で行った学習合宿、さらには鹿児島県奄美大島を舞台とした修学旅行等があります。これからは、皆さんが歩んだ跡を、しっかりと確かめながら、さらなる改善を加えて、後輩たちが歩いていくこととなります。皆さんが残してくれた成果を、いかにして定着、発展させていくかが、私の大きな仕事のひとつであると考えています。西宮甲山高校の今後を、楽しみにしててください。

最後になりましたが、卒業生の皆さん一人ひとりが、本校の校訓である基の精神「己を究め、ふれあいのなかに、明日を拓く」を胸に刻み、「自らの夢をあきらめない人」としてたくましく成長され、活躍されること、さらには皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。

平成28年2月26日

兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 松本修身